

公益社団法人 **日本農芸化学会** 関東支部 2017年度第2回 企業イベント

(報告者: 岡田 敦)

日本農芸化学会関東支部2017年度企業イベントパート2～企業研究員からのメッセージ～が、2018年2月17日(土)に東京家政大学にて開催されました。本イベントは、将来のキャリアとして企業への就職を考える院生・学部生に対して、企業の第一線で活躍中の若手・中堅研究員の生の声をお伝えし、交流していただくことで、若者の未来をエンカレッジすることを目的として、秋と冬に2回に分けて開催しているものです。本年度の企業イベントパート2では、日本農薬、伊藤園、富士フィルム、高砂香料、J-オイルミルズ、ライオンの6社よりご賛同を頂き、関東の学生約80名が参加しました。

当日の講師と演題(敬称略)

1. 小澤 友理子 (日本農薬株式会社 研究本部 研究企画室)
食料生産を支える 日本農薬の開発研究
2. 小林 誠 (株式会社伊藤園 中央研究所)
企業における食品機能研究の面白さと難しさ～カテキンの機能性解明研究の紆余曲折など～
3. 今泉 佑貴 (富士フィルム(株) R&D統括本部 医薬品・ヘルスケア研究所)
富士フィルムの研究開発について
4. 原 真司 (高砂香料工業(株) 研究開発本部 アロマイングリディエント研究所)
生化学的手法による香料開発
5. 山縣 海 (株式会社J-オイルミルズ 商品開発研究所)
J-オイルミルズでの研究開発～スターチによる美しさデザイン～
6. 永盛 友樹 (ライオン株式会社 ウェルネス研究所)
睡眠改善サプリメントの研究開発について

講演の部では各企業の研究者の方々を講演者として

- ・会社で取り組んでいる研究の説明や教育訓練制度の紹介
- ・会社でのキャリアパス
- ・学生時代の研究や企業に就職した経緯
- ・会社や休日での過ごし方

などを分かりやすく講演していただきました。研究職での就職を意識している学生にとって特に興味を引く内容とあって講演を聞く学生さんの目は真剣そのもの。会社での学位の重要性や研究職からの異動先など、企業の研究活動に関するたくさんの質疑応答が交わされました。



講演会に先立ち挨拶する浅見支部長



講演会の会場風景

JSBBA KANTO

講演の部終了後は食堂ホールに会場を移して講演者の方々によるパネルディスカッションを行いました。エントリーシートを書き方、一緒に働きたい同僚像や会社でこれから取り組みたい事など、学生からの就職に関するよりパーソナルな質問に対し、講演者から就職活動経験者ならではの意見や学生に向け多くのアドバイスを頂きました。やや緊張がほぐれて来た学生たちでしたが、講演者の実感のこもった意見を聞き、うなずきながら一生懸命メモを取る姿が印象的でした。



パネルディスカッション



会場の様子

最後はテーブルと席を皆で移動し、講演者と学生の垣根を取り払って自由に交流していただく場を設けました。講演者と直に会話できる絶好の機会とあって、講演者の方々をたくさんの学生さんがメモを片手に取り囲んで積極的に質問し、自由闊達に意見交換する様子が見られました。学生自作の名刺による自己紹介や、講演者が一人一人丁寧に応えている様子なども見られ、学生さんにとっては普段体験できない濃密な交流の場となったのではないのでしょうか。おかげ様で学生さんからの熱意と要望を受けて交流時間を延長するなど、大盛況のうちに閉会する事ができました。

本イベントを通じて参加した学生からは

- ・イベントに参加した企業は、研究面で自分の専攻を生かせそうだと感じた。
- ・企業の方から生の声を聞くことができた。
- ・研究者として働く上でのイメージがついた。
- ・将来の方向性についてモヤモヤしていた気持ちが晴れた、などの感想を頂きました。

また講演者の方々からも

- ・学生さんの積極性を非常に感じた。
 - ・学生さんたちからいっぱい刺激を受けた。
 - ・他の企業の話聞いて新鮮で貴重な体験だった。
- などの感想を頂いております。

お付き合い下さいました講演者の方々に対しては感謝の念に堪えません。また運営としては参加した学生さんに対して今後の就職活動への考え方や取組姿勢に少なからず良い影響を与えられるイベントを開催できたのではないかと考えております。



交流会の様子